

OS02-3 産業界の期待と提言

○手代木 功¹

¹製薬協

我が国は、アメリカ・スイスに次ぐ世界第 3 位の新薬創出国として高い研究開発力を発揮する一方、研究開発環境の面では国際競争力に優れているとは言い難いのが現状である。ライフサイエンス分野におけるアカデミアの基礎研究力は世界的に優れているものの、国内における最新の研究成果や先端技術をいかに応用化・実用化し、革新的新薬の創出につなげていくかが喫緊の課題となっている。

さらに、製薬企業間でのグローバルな新薬開発競争はもとより、国内産業の育成と海外企業の投資を呼び込むことを目的とした創薬環境整備の国家間競争が熾烈さを増す中、我が国が創薬立国としての地位を確固たるものとしていくためには、産学官それぞれの役割を明確化した上での緊密な連携が不可欠である。その方策として、基礎研究の成果を実用化に導くための「創薬支援ネットワーク」の構築や効率的な臨床試験の実施体制構築に向けた「臨床研究中核病院等」の整備に加え、医療分野における研究開発の司令塔機能としての『日本版 NIH』構築に向けた取り組みが着々と進められている。その取り組みの中では、誰が何を行うのか、に関して明確な責任と権限が必要である。

アンメット・メディカル・ニーズの充足と医療の向上に資する新薬創出の活性化を図るべく、『日本版 NIH』が、我が国における研究開発基盤として効果的に機能し、真に有益なものとなるよう、産業界としての期待と提言を述べたい。